

8-4-9 ダム・発電専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会開催回数：9回

地質分科会開催回数：9回

(2) 協会活動への協力・支援

「照査特別WG」に参画し、ダム分野におけるエラー事例の収集と要因分析に基づく品質セミナーのテキスト作成に協力した。

また、当協会が(一財)全国建設研修センターと共催する「ダム総合技術研修」への講師2名派遣、対応等を実施した。

「CIM導入ガイドライン(案)第4編 ダム編」の作成に対応した。

(3) 若手技術者を中心とした討論会・講演会

平成18年度より若手技術者による自主的な企画に基づく勉強会を継続して開催している。

平成29年度は5名の若手技術者による準備WGを5回開催したうえで、11月2日に「近年のダム設計の高度化」をメインテーマに業務事例発表会を開催した。また(一財)ダム技術センターの箱石憲昭首席研究員から「洪水吐きの水理と設計における配慮事項」に関して講演をいただいた。参加者は総勢42名であった。業務事例として、ダムの本体設計関連1例、堆砂対策関連2例、維持管理設備関連1例、ダムCIM関連1例の注目度の高い業務トピックスが紹介され、講師を交えた率直な意見交換を行った。

(4) ダム工事総括管理技術者会との意見交換会

平成13年度からダム工事総括管理技術者会(CMED会)からの呼びかけに応じ、年1回意見交換を行っている。平成29年度は、11月20日に開催し、ダム・発電専門委員会からは「既設ダムの有効利用に係る設計事例について」、「ダム設計・施工上の課題と対応について」の二つのテーマについて事例の紹介を行った。CMED会からは「ダム工事現場における働き方改革への取り組みと課題」に関する発表があった。意見交換会には、専門委員に加え、各社設計実務担当者も参加し、参加者は16名であった。CMED会

の常任幹事および(一財)日本ダム協会から総勢19名が参画し、意見交換を行った。

(5) ダム現場見学会の開催

年1回ダム地質および設計技術者を対象に、建設中のダム現場の地質を中心とした見学会を行っている。平成29年度は、10月26日～27日に建設中の立野ダム(九州地方整備局：曲線重力式コンクリートダム)、小石原川ダム(水資源機構：ロックフィルダム)を見学した。参加者は19名であった。

(6) 地質技術報告会の開催

年1回、主に地質技術者を対象に技術報告会を行っている。平成29年度は、8月26日に「地形・地質情報の活用と見える化」をテーマに掲げ、DAN 杉本様による招待講演、技術報告を実施した。参加者は183名であった。

技術報告では、「地形図から地形情報図へ」、「G-Space 地盤情報3D化への挑戦」、「建設関連業における3次元地質モデリングの実践と展望」、「ダムCIMへの取り組み」について発表があった。また「小石原川ダム建設現場」の地質状況等の報告が行われた。これらの報告と招待講演内容とあわせ、総合的な討論を行った。

(7) ダムなんでも相談室への参画

「丸の内キッズジャンボリー」(8月15日～8月17日)の期間中、啓発活動としてダム工学会とダム工事総括管理技術者会共催による「ダムなんでも相談室」にダム博士を派遣し、運営の協力を行った。ブース来訪者は、会期3日間で約800名であった。

(8) ダム設計に関する技術勉強会の開催

平成29年度は、「ダム技術の本質的なサブジェクト」をテーマとした技術勉強会を10月10日に開催した。講師は、(一財)ダム技術センターの川崎秀明首席研究員で、ダム技術に関する変遷や本質を分かりやすく解説いただき、今後のダム技術の展望と技術者のあるべき姿を講演いただいた。32名が参加した。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。

(ダム・発電専門委員会委員長 井根 健)